

# 2月の歴史カレンダー

★2月に何が起きたか

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
新潟県・新潟市、公害健康被害認定審査会を共同設置 (1970/S45)	水俣市、市内全世帯にパンフレット「水俣病のあらまし」を配布 (1989/H1)	経企庁、八代海南半部を水質保全法に基づく指定水域に指定。(メチル水銀を規制) (1969/S44)	「水俣病問題の早期・全面解決と地域の再生・振興を推進する市民の会」(会長：吉井侯市長)、環境庁及び熊本県の担当者を招き、市民館で水俣病問題の解決策水についての説明会を開催 (1996/H8)	◆福岡高裁、和解協議で一時金の基本額800万円の所見を提示 (1992/H4) ◆熊本県に認定申請している津奈木町等の40人が新たな未認定患者の団体「水俣病被害者芦北の会：森下紀裕会長」を結成 (2005/H17)	「水俣病問題の早期・全面解決と地域の再生・振興を推進する市民の会」(略称市民の会、会長は水俣市長) 設立総会、水俣市市民館で開催—194団体・個人が参加 (1993/H5)	新日窒附属病院長細川一、開業医松本芳、市川秀夫、湯堂で脳性小児マヒ様の患者をはじめて診察 (のちに胎児性水俣病と判明) (1958/S33)
8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日
熊本県水俣湾魚介類対策委員会、指定魚をなくし七瀬海域の仕切り網撤去を提言 (1995/H7)	故川本輝夫の証言を収録した「水俣病証」が出版 (2006/H18)		建国記念の日	◆「日本・インドネシア水俣病経験の普及啓発に関するセミナー」報告会を兼ねた大田黒浩一と語る市民の夕べ」が市民館で開かれ、市民約100人が参加—インドネシアでのセミナーに参加した6人がセミナーでの発表内容を報告、まちづくりについて意見を交換 (1997/H9) ◆フィリピンのマニラで「日本・フィリピン水俣病経験の普及啓発セミナー」(「水と緑の惑星保全機構主催、環境庁協力)が開催される—水俣病患者ら参加 (1998/H10)	◆市民の会、大蔵省・自治省・環境庁・自民党などにチッソへの抜本的金融支援を求め陳情 (~14日) (1997/H9) ◆「もやい館」が落成—政府の水俣病問題解決策で計画された3施設が完成 (1998/H10)	上野エイ子さん・川本ミヤ子さん・金子スミ子さんの語り部のビデオ、DVD、が完成 (2004/H16)
15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
◆水俣市、患者や関係者の高齢化・関係資料の散逸による水俣病事件の風化を防ぎ、水俣病の教訓を後世に語り継いでいくこと、全市民を対象に、関係資料や体験談などを募集 (1998/H10) ◆国立水俣病総合研究センター、毛髪水銀値の全国調査を始める (2000/H12)	熊大入鹿山日朗教授、熊大研究班の報告会で「新日窒水俣工場アセトアルデヒド酢酸設備内の水銀スラッジから有機水銀塩を検出した」と発表 (1963/S38)		水俣病患者運動のリーダー的存在で、チッソ水俣病患者連盟委員長の川本輝夫氏 死去 (1999/H11)	福岡訴訟提訴。(原告福岡県在住認定申請者ら8人) (1998/S63)	◆熊大研究班、水俣病原因で「水俣病を起こした毒物はメチル水銀化合物であるが、それは、水俣湾内の貝及び、新日窒水俣工場のスラッジから抽出された。しかし、現段階では両抽出物質の構造はわずかに違っている」と正式発表。 (1963/S38) ◆関西訴訟後2番目の認定申請者の団体「水俣病不知火患者会」の結成総会が開かれる (2005/H17)	水俣病患者平和会、水俣病未認定患者を救済する政府解決策に基づき、チッソと一時金支払と紛争終結のための協定を締結 (1996/H8)
22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
	◆自主交渉派、大石環境庁長官、沢田熊本県知事ら立会いでチッソと初の自主交渉を環境庁で開く (1972/S47) ◆水俣漁民未認定患者の会と茂道水俣病同志会、チッソと一時金支払・紛争終結のための協定書を締結 (1996/H8)		新日窒水俣工場①廃水は23年当時と変化はない②排水中のPH調節、沈殿池設置③排水口はしゅんせつ④漁獲減は合同調査を行うと回答。 (1957/S32)	熊大研究班、水俣湾内の漁獲禁止が必要と報告 (1957/S32)	◆熊本県水俣湾魚介類対策委員会、国が定める「魚介類の水銀の暫定的規制値」を越える16魚種を指定し、①仕切網の残置、②水銀の追跡調査、③指定漁の買上げ、④漁場の有効活用、⑤漁業対策、の処置を講ずることを提言 (1990/H2) ◆宮本水俣市長が環境省を訪れ小泉首相の慰霊式への出席を要請 (2006/H18)	水俣病資料館語り部杉本栄子さん死去 (2008/H20)